

国の登録有形文化財

たんざんがわきょうりょう

旧三井芦別鉄道炭山川橋梁



基部が太く上部に向かうにつれ細くなる形状の橋脚(上) 緩やかなカーブを描く橋上の鉄路(下)



アクセス・メモ

◎所在地／芦別市中の丘町～西芦別町

◎自家用車＝芦別市街から国道452号三笠方面約5.5km

◎路線バス＝JR芦別駅前からキラキラバス頼城線「西芦6丁目」下車。徒歩5分

指揮者先頭

指揮者先頭とは、「指揮者は常に皆の先頭に立って行動する必要がある。」という意味で、私が考えた大切にしている言葉です。

No. 10

このたび、私の個人宅の建築に関し、市の業務を受注する立場にある業者への設計依頼や建設業者との打ち合わせの席に市職員が同席し、提案やアドバイスを行っていただくことで、公職の立場にありながら市民の皆様方の信頼を損なう事態となりましたことによりお詫び申し上げます。さて、この冬は例年になく降雪量も多く、市としては除排雪費を2度補正しその対応をさせていただきました。地域生活を守るための予算を安定的に確保しなければとの思いを強く感じたところです。

先月開催した「まちづくり懇談会」には多くの皆さんにご参加をいただきました。道の駅の再開発、消防庁舎の建替え等々に対して寄せられた多くのご意見は、皆さんが芦別の将来を心配しての貴重なご提言として受け止めさせていただきました。また、このほかにもいただいた市政運営に関する多くのご意見も十分に踏まえながら、しっかりとまちづくりを進めてまいります。今後多くの方々からの「生の声」をお聞かせいただける機会や場所をつくっていきたいと考えています。

3月議会も本日終了しました。平成25年度の予算も確定し、市政施行60周年の記念すべき年が芦別市の新たな一歩となるように今後も励んでまいります。

(平成25年3月22日・記)

芦別市長 清澤 茂宏

旧 三井芦別鉄道は、三井芦別炭鉱で産出された石炭

を搬送する目的で建設された単線の鉄道で、1945(昭和20)年12月に、頼城町から旧国鉄芦別駅構内までの全長9・11kmが開通しました。この間、芦別川と炭山川にかかる二基の橋梁がありました。現存しているのが炭山川橋梁です。

炭 山川橋梁は1944(昭和19)年に着工し、翌年

完成しました。橋脚は鉄筋コン

クリート製の円柱5本からなり、川床からの高さは32m。橋梁部分は緩やかな曲線となっており、長さは81・92mあります。設当時は戦時下にあつて

建

資材不足。そのため、橋桁は大阪鉄道局から払い下げを受けたものを使用。また橋脚は、上部に向かうにしたがつて細くするなど、物資不足でも強度を保とうとしたあとが見られ

ます。

三

井芦別鉄道は、1989(平成元)年に営業を終えました。橋上の鉄路はそのままだが、線路上には石炭運搬に使われたディーゼル機関車D501と石炭専用貨車セキ3820が展示されています。

芦

別市の炭鉱遺産の代表的存在として、鉄道ファンだけでなく、市外からも多くの観光客が見学に訪れています。



平成25年度予算について審議された市議会予算審査特別委員会